



NEWS

職員への新型コロナウイルスワクチン接種を行っています

感染制御部 ICTリーダー さの ちあき
佐野 千晶

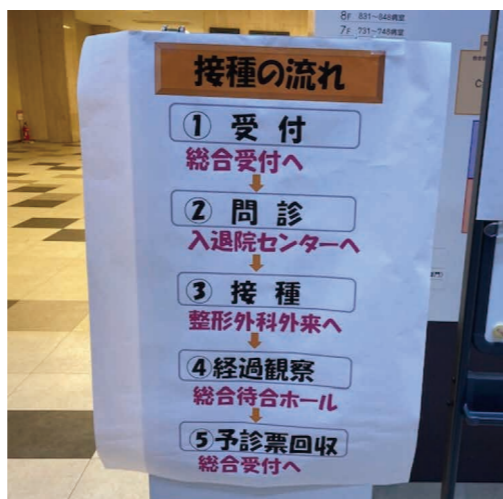
この春より、職員への新型コロナウイルスワクチンの接種を行っています。このコロナワクチンは、インフルエンザワクチンと比較して副反応と呼ばれる接種後の痛みや接種後発熱の発生頻度が高いとされています。このため、万が一に重篤な副反応が起こった際の対応の準備や、職員が接種後体調不良も予想されるため勤務体制の工夫などを行っています。ワクチン接種実施にあたっては、看護師、医師、薬剤師、事務を中心とした院内全部署の全面協力体制が必要で、コロナの院内持ち込み防止策とコロナワクチンの実施に関して多くの職員へ通常業務に上乗せした負担を強いているのが現状です。

新型コロナワクチンには大きく3つの効果役割、①感染発症抑制効果、②重症化抑制効果、③集団免疫の獲得が期待されています。その中で、病院で勤務する職員の多くがワクチンを接種することとなれば、医療現場での集団免疫の獲得が期待出来ます。そして、医療の現場は、より安心感を持って医療を受けられる場所になるものと思われまます。

ワクチンがひろまっても、基本的な感染対策が変わるわけではありません。力をあわせて難局を乗り切ってまいりたいと思います。今後とも御協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



ワクチンの接種



ワクチンの被接種者フロー

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

5月15日～6月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

| 開催日 | 開催名 | 場所(★印 学外開催) | 対象者 | 主催者 |
|------------------------|-----------------|-------------|-----|--|
| 5/15(土) 12:50~16:30 | 第31回 島根県がん登録研修会 | オンライン配信 | 医療 | 島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会実務担当者研究会 島根県健康福祉部健康推進課 島根大学医学部附属病院 |

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

・病院長補佐の挨拶

・職員への新型コロナウイルスワクチン接種を行っています
・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

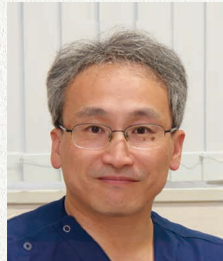
病院長補佐 挨拶

Greetings from the assistant hospital director



改革担当
ふじたに まさし
藤谷 昌司

病院長補佐を拝命しました解剖学講座（神経科学）の藤谷と申します。医学部では、医学生、看護学生に必須の解剖学を担当しております。また附属病院では、ご遺体を利用したCST（Cadaver Surgical Training）センター副センター長も担当しております。微力ではございますが、病院長・副病院長のリーダーシップのもと職務を果たすべく努力いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



改革担当
わたなべ ひろあき
渡部 広明

この度、改革担当の病院長補佐を拝命いたしました高度外傷センターの渡部です。今、大学病院は社会の変化に応じて大きな変革が求められています。加えてコロナ禍にある現在、本院が掲げる理念にあります地域医療と先端医療もより幅広い領域にわたってその役割が期待されています。本院が社会のニーズにしっかりと応えられるよう、既存の病院機能をより高度なものに高め、さらに本院独自の取り組みを全国に発信していく大学病院となりますよう、病院長・副病院長先生の業務を支える立場として尽力したいと考えております。皆様のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



改革担当
たまき ゆきひさ
玉置 幸久

このたび病院長補佐（改革担当）を拝命致しました玉置幸久です。大学病院を取り巻く環境は刻一刻と変化し、患者さんや社会からのニーズも変わりつつあります。これらの状況をふまえ、椎名病院長、田邊副病院長（改革担当）の指導のもと、常に改革、改善の意識をもって諸問題に取り組んで参ります。一方、本院がずっと大切にしてきたもの、変わるべきでないものもあります。何が大切かを職員と一緒に考え、皆様にとってより良い大学病院となるよう努力を重ねて参ります。



安全管理担当
おの さとし
大野 智

安全管理担当の病院長補佐を拝命しました臨床研究センターの大野智です。本院は、厚生労働省から承認された高度な医療を提供する県内唯一の特定機能病院です。しかし、それは万全な医療安全管理体制の整備が前提である事は言うまでもありません。安全管理担当の村川洋子副病院長のもと椎名浩昭病院長を補佐する立場で微力ながら本院の医療安全に尽力いたす所存です。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



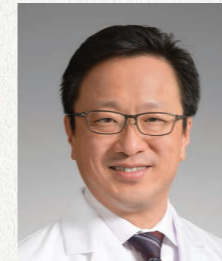
安全管理担当
ふくだ せいじ
福田 誠司

2021年度から病院長補佐（安全管理担当）を仰せつかりました。現在、医療安全管理部の専従医師として院内の患者安全の向上に努めています。力不足を感じた一年でしたが、椎名病院長の下で、微力ではありますが、患者さんが安心して医療を受けられることが出来るように誠実に努めて参りたいと思います。先生方のご理解、ご支援、ご指導、お力添えを頂きますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



安全管理担当
やの しょうそう
矢野 彰三

このたび安全管理（COVID-19担当）の病院長補佐を拝命しました検査部・COVID-19検査センターの矢野彰三です。本院では、検査機器や医療体制の整備・構築を行い、院内感染防止策を講じることにより、高度医療水準を維持してきました。現在、ワクチン接種が開始されていますが、COVID-19感染症は、長期にわたり監視し予防していく必要があります。職員の健康管理はもとより、安全な院内環境整備、安心できる医療の提供に努めて参ります。ご指導の程、よろしくお願い致します。



経営担当
かなさき けいぞう
金崎 啓造

病院長補佐を拝命いたしました内科学第一の金崎啓造です。私は島根大学に2019年に赴任したばかり、さらに知能も迎えない若輩者であります。にもかかわらず、椎名病院長から大役に御指名いただきましたのは、フレキシブル・多様な考え方を病院運営に積極的に発信・導入せよという御指示であると考えます。また、病院運営から私自身学び、成長する機会とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



経営担当
さくら しんいち
佐倉 伸一

新年度より病院長補佐（経営担当）を拝命いたしました手術部の佐倉伸一です。大学病院には医療および教育・研究機関としての大きな使命がありますが、そのためには経営基盤が安定していることが不可欠です。手術療法は患者さんにだけでなく、病院経営にとっても大変重要です。手術部の効率的な運用による充実した周術期医療の提供が求められます。田島副病院長に協力しながら病院を経営的側面から支えていきたいと思っています。



経営担当
かわむら としひこ
河村 敏彦

本年4月より病院長補佐（経営担当）を拝命致しました河村敏彦です。専門はデータサイエンス、経営工学です。経営工学とは、経営活動を取り巻く現象を統計的に理解してそれを適切にマネジメントすることで、合理化と効率化を図る工学です。医師や看護師などの高度な医療専門職を活かしていくためには、人的資源の適正な効率化が必要です。これらの根拠となる医療情報システムを構築し、その蓄積された膨大なデータに基づいて意思決定を支援することで、戦略的な病院経営の実現と医療の質の向上に寄与したいと考えております。ご支援、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



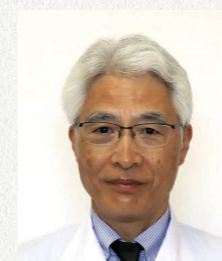
研究・教育担当
わだ こういちろう
和田 孝一郎

本年4月より病院長補佐を拝命いたしました、医学部薬理学講座の和田と申します。医学部基礎系講座に所属しておりますので病院のことにしましては未熟な点が多々あるかと思いますが、椎名病院長、竹谷副病院長のもと、基礎系分野と臨床系分野との有機的な融合・活性化のために微力ながら尽力してまいりたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



研究・教育担当
ながい あつし
長井 篤

本年4月より病院長補佐を拝命致しました。本院では2019年9月より脳神経内科科長として、前院長の元ではコンプライアンス担当で同職を拝命し、病院運営について学ばせて頂きました。椎名新院長の元では、竹谷副病院長を補佐する形で研究・教育担当の任を仰せつかります。県内の関連病院、他学部や基礎医学講座と連携して研究・教育の発展を図ることで、病院運営や医療に貢献して参りたいと思いますので、関係各署の皆様には引き続きご支援をよろしくお願い致します。



研究・教育担当
なほら こうじ
直良 浩司

このたび病院長補佐（研究・教育担当）を拝命しました薬剤部の直良浩司です。これまでの薬剤部長ならびに治験管理部門長としての役割に加えて、これからはより広い視野を持って病院長補佐としても病院や地域の発展のために注力してまいります。大学病院の基本的な使命である研究と教育について、竹谷副病院長のリーダーシップのもと長井教授、和田教授とともに、より充実した教育研究活動が展開できるように取り組んでいきたいと考えております。これからもご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



ご報告

病院における新しい医療職

病院救急救命士(ホスピタル・パラメディック)の活躍

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明



当院では2018年2月からドクターカー事業を開始するに当たり、病院雇用の救急救命士を「ホスピタル・パラメディック」と呼称しその業務を開始しました。現在6名の救急救命士が当院に勤務しています。

救急救命士は、救急救命士法に基づいて業務を行う国家資格者で、病院前における救急活動として器具を用いた気道確保、心肺蘇生行為、静脈路確保、薬剤投与、電気的除細動、さらには有資格者では気管挿管の実施等が可能な厚生労働省の認める医療職です。当院ではこのホスピタル・パラメディックがドクターカーに乗車して現場へ駆け付け、医師・看護師とともに救急業務に従事しています。これまでに708件の出動要請に応じ救急活動に従事してきました。病院前救急業務のプロフェッショナルである救急救命士が医師・看護師とともに協働することでより質の高い病院前救急医療が可能となっています。



本年4月からはドクターカーの24時間運用に向け、日勤・夜勤の2交替制で地域の医療機関からの転院搬送等にも夜間を含む24時間対応する体制となりました。また、現在国会において救急救命士の病院救急室での医療行為の実施を可能とする救急救命士法の改正が審議されており、今後病院内においてもその医療職としての位置づけは高くなるものと思われます。当院では、重症外傷をはじめ、各医療機関で発生した重症救急患者さんの受入に対して病院前から質の高い医療を展開できるよう体制整備を進めて参ります。



ご報告

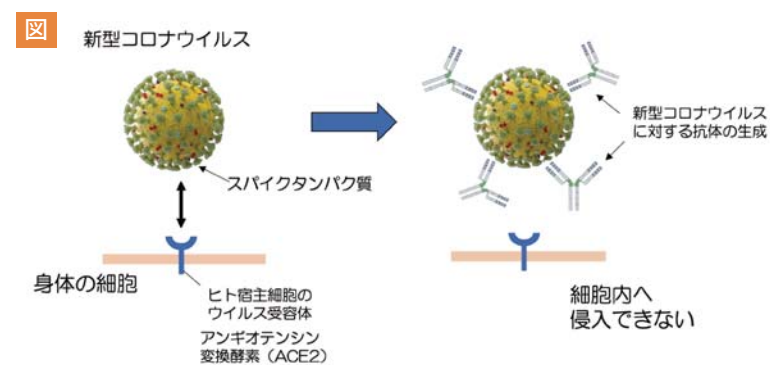


新型コロナウイルス感染を阻害する抗体について

生化学講座(病態生化学分野) 教授 うらの たけし
浦野 健

新型コロナウイルスによる感染症は、すでに全世界192カ国に及び、死者は300万人を超え、感染者も1億4000万人を超えており、世界的な流行(パンデミック)になっています。

このウイルス、なんとなく人に感染すると思いませんか?理由があります。ウイルス表面にあるスパイクタンパク質が、身体の細胞表面に在るタンパク質(ウイルス受容体と呼びますね)と結合してはじめて、ウイルスは細胞の中に入り込みます(図)。そして、細胞を破壊してしまうので、肺炎になります。ウイルスが、身体の細胞表面に在るウイルス受容体と結合できなければ、感染は起こりませんよね。そこで、ウイルスに対する抗体(タンパク質の1種です)を人工的に作って投与してあげれば、身体の中の感染拡大を防ぎ、ウイルスを身体の中からなくしてしまえるわけです。



写真左端 浦野教授

島根大学では、長崎大学と共同でこの人工抗体の元となる抗体の開発に成功し、1月に記者会見を行いました(写真)。また、今急速に進められているワクチン接種は、ウイルスに対する抗体を前もって作らせておいて、ウイルスの細胞への感染を予防しようというものです。ウイルスを身体の中に取り込まないことが一番大事ですので、3密を避け、マスク・手洗い・うがいをしっかり行いましょう!





ご報告



ご報告

島根大学医学部附属病院における 看護必要度IIの確保と精度向上への取り組み

データセンター センター長 かわむら としひこ
河村 敏彦

島根大学医学部附属病院では、特定機能病院7対1入院基本料を算定しており、2019年10月からは重症度、医療・看護必要度II(以下、看護必要度II)を選択しています。特定機能病院7対1入院基本料を算定するための施設基準としては、直近3ヶ月の看護必要度IIの平均値28%を超える必要があります。本報告では、当院における看護必要度IIの値の確保に向けた対策と、評価精度を上げるための具体的な改善活動を紹介します。

2018年7月より、看護必要度確保に向けた多職種横断型プロジェクトチームを立ち上げ、評価の点検および再確認をしました。具体的な取り組みとしては、「看護記録データ」と「会計情報データ」とのギャップに着目し、レセプト電算処理システム用コードの漏れについて現状分析を行いました。その結果、実際には医療行為が行われているにもかかわらず、必要度IIへ反映されていないものがあることがわかりました。そこで、30以上ある看護必要度IIの項目をパレート図による重要指向に基づいた分析を行うことで、主要4項目に絞り込みました。これらに関して診療科別に傾向を可視化させ、特定の診療科についてはどうすれば算定漏れが防げるか原因を追及し、対策を講じてきました。

現在、看護必要度IIは30.81%であり、直近3ヶ月の平均値は28%を超えています(図)。今後も恒常的に維持・改善を行うためには、記録の質的監査を実施し、評価の根拠となるデータとそれに基づく定量的な分析を行っていくことが必要です。医療現場を動かす医師や看護師のみならず、多職種協働を促進させて看護必要度IIを病床運用の指標として積極的に活用し、継続的な看護必要度IIの確保および精度の向上に取り組む所存です。

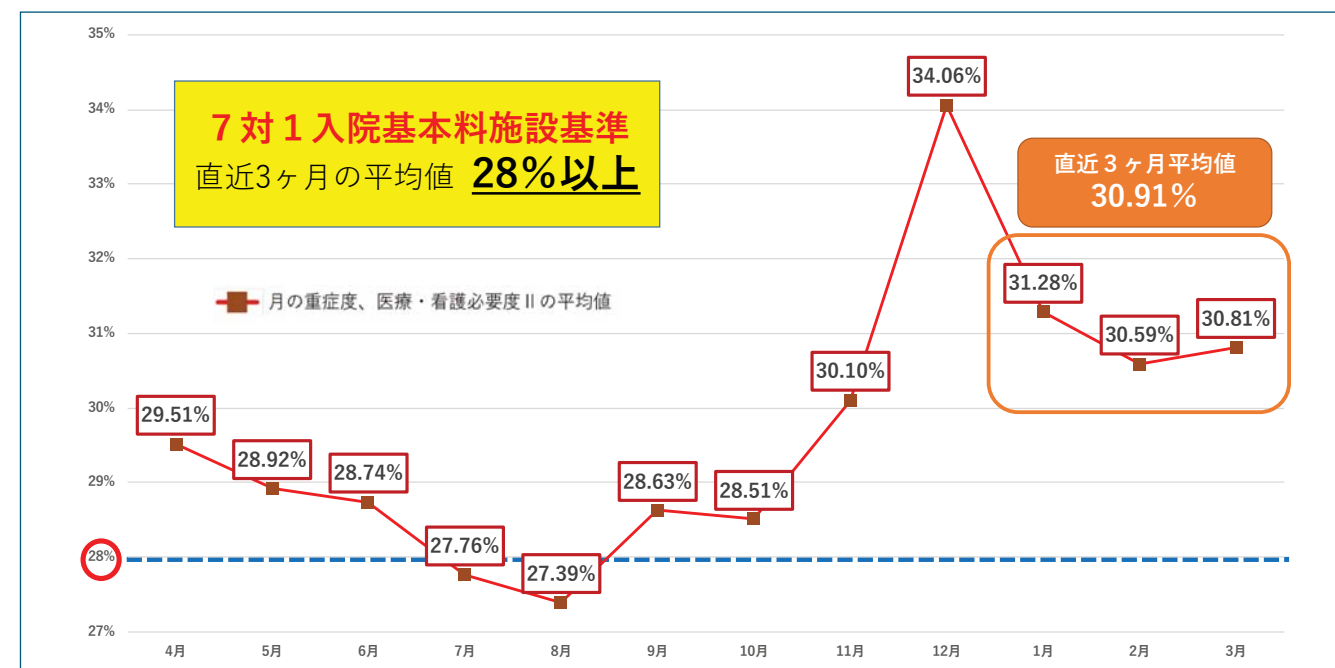


図: 2020年度の月別の重症度、医療・看護必要度II (資料: 看護部 生土副師長)

Cadaver Surgical Training CSTセンターの現状について

解剖学講座(神経科学)教授/CSTセンター副センター長 ふじたに まさし
藤谷 昌司

医療をより安全に行って欲しいという、国民のみなさまからの声は年々高まり続けています。最近、高度化した手術手技・検査手技の新しい教育の手法として、献体を用いた実践的な実技研修(このことをCSTと呼びますが、日本でもますます活発に行われるようになってきました。当院にも、解剖で得られた成果を医学および社会に還元することを目的として、CSTセンターが設置され2年が経過しました。

その間CSTが、4つの講座によって施行されました。Acute Care Surgery講座によるASSET(外傷外科手術トレーニング)コース(日本では4大学目)、眼科学講座による涙嚢鼻腔吻合術トレーニング、耳鼻咽喉科学講座による経鼻内視鏡手術、整形外科講座による肩関節鏡視下手術手技トレーニングです。若手医師が研修に参加し、非常に充実した研修を行いました。

CSTは、日本解剖学会、日本外科学会が合同で策定した「臨床医学の教育および研究における死体解剖のガイドライン」を遵守して施行されます。これまで有終会の会員のみならず、ご家族さまの深いご理解、ご支援のもと、医学部内の専門委員会、倫理委員会での厳格な審査の承認を経て、施行させて頂いています。

今年度もさまざまな講座によって、研修が計画されています。解剖学講座としても、附属病院、各臨床系診療科との密接な連携のもと、医師の手術手技、検査手技の向上のため、CSTの運営に貢献して参ります。





ご報告

初期研修医臨床研修をスタートしました

おさき しほう
岡崎 四方
卒後臨床研修センター 副センター長

2021年春、医科研修医10名及び歯科研修医2名が臨床研修をスタートしました。医科研修医はShimadaizmプログラム4名、産婦人科重点プログラム1名、たすきがけプログラム5名です。たすきがけプログラムは、最初の1年間を協力病院（島根県立中央病院、大田市立病院、浜田医療センター、益田赤十字病院、宇治徳洲会病院）で研修を行います。

4月1日には辞令交付式があり、上記のうち当院で研修を開始する7名と、昨春協力病院で研修を開始し2年目より当院で研修を行う先輩研修医4名、合わせて11名の研修医が椎名病院長より辞令を受け取りました。

学生から社会人となることによる生活パターンの変化、1～2ヵ月周期での研修先診療科のローテーションなど、ここから数ヵ月の間は心身ともにストレスがかかることと思います。研修医との定例の面談とともに指導医との密なコンタクトや定期的開催される指導医会を通して、研修医をサポートしていきます。

今年の桜は開花が早く、4月1日にはすでに葉桜でした。研修医も若葉が太陽の光を吸収してぐんぐん大きくなるのと同じでこれから多くのことを吸収し身に付けていくことでしょう。

先生方には地域研修等でご指導いただきますが、どうか若手医師の育成にお力添えをいただければ幸いです。



ご報告

新人看護職員が入職しました

たなか まなみ
看護部長 田中 真美

当院では、新しく69名の看護職が入職し希望と責任を胸に社会人、専門職業人としての新たな一歩を踏み出しました。4月1日からの入職時研修では、コロナ感染対策をふまえて講義中心に行いました。社会人・組織人としての職務、病院の概要を理解することから始め、教育体制、チーム医療、医療安全や感染対策の講義、防災訓練等を行いました。そして、看護倫理について学習後、当院に頂いた『患者さんの声』のお褒めの言葉の内容をもとに『患者さんが求めている看護師』についてグループワークを行い、各自が接遇、看護師としての対応を認識する機会となりました。部署配属後には、分散して、確実な服薬管理、安全な採血や輸液管理等の技術演習を実施しました。現場で実際に患者さんに対応した後の技術演習であり、技術の習得を再確認する場となりました。



感染対策、個人防護服(PPE)装着方法の講習場面

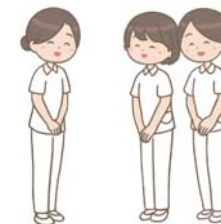


救急対応BLS研修の場面

今回の新卒看護職は、コロナ禍で十分な臨地実習を経験することができない状況下での入職となりましたが、コロナ禍を乗り越えた皆様だけに、皆、前向きでたくましく感じられます。産業医より健康管理についての講義を受け、教育の場と医療の場のギャップに押しつぶされそうになっても一人で悩まず相談すること、職場における自助、共助、公助の重要性、特に挨拶（※オアシス）からはじまる、ワークライフバランス等のセルフコントロールを心がけていくことの講義も受けています。

現在、新人看護職は配属部署で、患者さんへのケアを通して先輩看護師の指導のもと、社会人として職業人としての楽しさ厳しさを目の当たりにしているところです。看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」のもと、日々看護実践能力を身につけて頑張っていきますので皆様暖かい目で応援をお願いします。

- ※ オはようございます（朝の挨拶）
- アリがとうございます（感謝の挨拶）
- シつれいします（退勤の挨拶）
- スみません（素直に詫げる挨拶）





ご報告



ご報告



働き方改革検討ワーキンググループについて

病院長補佐(改革担当) 放射線治療科 准教授 たまき ゆきひさ
玉置 幸久

働き方改革検討ワーキンググループ(WG)は、昨今の働き方改革の流れと、厚生労働省からの指導もあり、井川幹夫病院長(当時)からの指示により椎名浩昭教授を座長として2018年5月28日より活動を開始しました。

以来、およそ月1回のペースで開催し、労務管理に関するすべての事項を検討範囲としています。

2021年4月より座長の任を玉置幸久が引き継ぎました。

構成員は教授から助教までの教員、医科医員、臨床研修医、看護師や診療放射線技師などのメディカルスタッフ、そして事務職員を含めた総勢16名から成っています。ベテランから若手まで、そして男女を問わず、様々な職種や部署の方がメンバーになっています。多種多様な人材を集めることで、いろいろな角度から多角的、複眼的に事象を眺め、様々な意見を吸収しながら、諸問題に対して検討を行っています。

現在までに、医師を中心とした労働時間の把握および見える化の推進と打刻の義務化、タスク・シフティング(業務の移管)の推進、医師の労働と研鑽の基準策定などについて取り組みました。

同時に、病院の全診療科に大規模なアンケート調査を行い、得られた結果をもとに主成分分析および因子分析などを行いながら、ニーズの高い項目を抽出し、重点改善項目としております。

今後は、本学医師の他院への兼業(診療支援)の考え方、複数主治医制の推進、病院にとって有益となる資格を取得したスタッフなどへのインセンティブのあり方などについて検討を深めていく予定です。

働き方改革検討WGは職員が元気に気持ちよく、そして前向きに仕事ができるよう、これからも改革・改善を進めていきます。



島大病院の空に「こいのぼり」が揚がりました

総務課

近年、住宅事情や時代の変化に伴い、街中でこいのぼりを見かけることも少なくなる中、「病院にこいのぼりを揚げよう」という井川前病院長の声かけで始まった『島大病院こいのぼり掲揚プロジェクト』。今年も病院正門前に掲揚しました。



4月20日(火)当日の天気は快晴。心地よい春の風が吹き、こいのぼりを揚げるまたとない機会となりました。集まってくれたうさぎ保育所の子どもたち31名もこいのぼりが揚がるのを待ちきれない様子でした。

椎名新病院長からのお話の後、子どもたちが「こいのぼり」と「春の風」の2曲を元気よく歌ってくれ、いよいよこいのぼりを揚げる時が来ました。

子どもたちは椎名新病院長、田中看護部長とともに交代で掲揚台に上がり、元気よく紐を引いてくれて、こいのぼりが空高く泳ぎ始めると、拍手と歓声が沸き起こっていました。

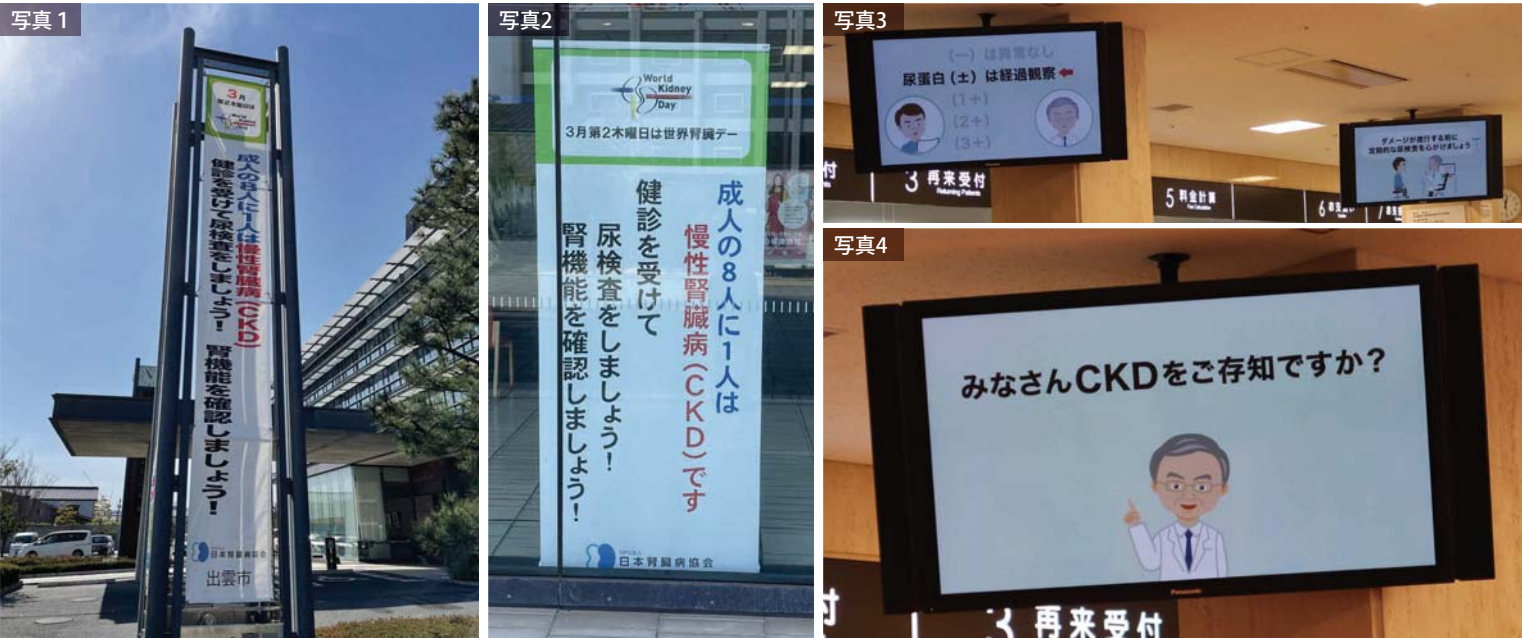
こいのぼりは、これからゴールデンウィーク明けまで病院の空を泳ぐ予定です。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、暗いニュースが多い今日この頃ですが、子どもたちの健やかな成長を願いつつ、空高く元気よく泳ぐこいのぼりを見て、少しでも患者さんの心の癒やしになることを願っています。





ご報告

島大病院ニュース 2021年5月



慢性腎臓病(CKD)の普及啓発活動

腎臓内科 診療教授 いとう たかふみ 伊藤 孝史

慢性腎臓病(CKD)対策の一環として、2018年7月に「腎疾患対策検討会報告書」が発出されました。その全体目標は、『自覚症状に乏しい慢性腎臓病(CKD)を早期に発見・診断し、良質で適切な治療を早期から実施・継続することにより、CKD重症化予防を徹底するとともに、CKD患者(透析患者及び腎移植患者を含む)のQOLの維持向上を図ること』です。また、個別目標として、①普及啓発、②地域における医療提供体制の整備、③診療水準の向上、④人材育成、⑤研究開発の推進という5本柱を挙げています。

当科では、2011年に島根県慢性腎臓病対策協議会を立ち上げ、毎年世界腎臓デー(3月第2木曜日)にあわせて啓発イベントや、市民公開講座を開催してきました。

この度、厚生労働科学研究費補助金(腎疾患政策研究事業)「慢性腎臓病(CKD)に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」(研究代表者 伊藤孝史)、NPO法人日本腎臓病協会(幹事長 伊藤孝史)の支援を得て、世界腎臓デー(2021年は3月11日)にあわせて、出雲市役所で懸垂幕(写真1)、ロールアップバナーの掲示(写真2)を行っていただきました。また、大学病院では待合ホール(写真3、4)、内科外来のモニターに、CKD啓発動画を流していただいております。これらの啓発動画は、上記の厚生労働省班会議のホームページ(<https://pmne-kd.jp/message.html>)から無料でダウンロードできますので、ご活用いただければ幸いです。

今後も、自覚症状に乏しい慢性腎臓病(CKD)を早期に発見・診断し、良質で適切な治療を早期から実施・継続できるように、活動して参りたいと思いますので、ご指導、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ご報告

島大病院ニュース 2021年5月

乳児股関節検診の現況



整形外科 診療科長 教授 うちお ゆうじ 内尾 祐司
助教 かどわき まさる 門脇 俊

発育性股関節形成不全症(DDH)は1970年代からの全国的な予防運動によりその頻度は激減しました。しかし、近年の調査では脱臼児の15%が1歳以上の診断遅延例であることがわかり、見逃しを防ぐべく検診体制の強化が叫ばれています。

当院整形外科ではDDHの診断に超音波診断装置を用いています。Graf法という世界標準の診断基準によって正常股関節、成長不全、亜脱臼、脱臼を診断します。以前より4か月検診の二次検診を受け入れておりましたが、2017年からは院内出生児を対象とした1か月検診を開始し、より早期に異常を発見できるよう努めております。

2016年4月から2020年3月の間に市の4か月検診や小児科医院から145児が紹介されました。Graf法による検査で142児は正常、1児が形成不全、2児が脱臼と診断されました。紹介の理由(重複あり)は70%が「皮膚溝の非対称」、30%が「開排制限」でしたが「家族歴」と「骨盤位分娩」はそれぞれ1児のみでした(表)。本邦の全国調査ではDDHの危険因子のうち全脱臼に占める割合は家族歴が27%、骨盤位が15%とされており、「家族歴」と「骨盤位分娩」についての病歴聴取が不十分であることが危惧されます。

DDHの治療は発見が早ければ早いほど予後が良好です。出生時、1か月検診、4か月検診と多くの目で見逃さないよう地域での協力体制が重要と感じております。少しでも「あやしい」と感じた児がいれば遠慮なくご紹介頂ければ幸いです。



表 紹介理由(重複あり)

| | |
|-----------|-----------|
| 皮膚溝非対称 | 103児(71%) |
| 開排制限 | 45児(31%) |
| クリック | 2児 |
| 家族歴 | 1児 |
| 骨盤位分娩 | 1児 |
| 下肢長差、肢位異常 | 1児ずつ |



2021年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2021年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

